

鉚体協だより

第74号

発行 鉚路市体育協会
平成30年3月31日

輝かしい功績をたたえ

平成29年度 鉚路市スポーツ賞 スポーツ奨励賞



スポーツ賞 ^{ふなと としお}船戸 俊雄氏 (93歳) 【剣道 銃剣道】

50余年にわたり剣道をこよなく愛し、この間、全鉚路剣道連盟、鉚路銃剣道連盟の要職を歴任され、両連盟の中核として組織運営に尽力されました。さらには、鉚路市内初の剣道少年団「寿剣道少年団」を設立。熱意と愛情をもって団員の指導に邁進され、全道大会で活躍する多くの選手を育成するとともに指導者の資質向上を精力的に図られ、剣道を通じて青少年の健全育成に大きく貢献されました。また、銃剣道においては選手として卓越した技術を発揮し、各種大会で優勝するなど競技の普及振興に取り組みられました。



スポーツ賞 ^{ながはら まなみ}長原 茉奈美氏 (23歳) 【バドミントン】

平成29年7月、トルコ・サムスンで開催された第23回夏季デフリンピックにおいてバドミントン競技女子シングルスに出場。積極的な攻めのスタイルと日々の練習で培った粘り強さで銅メダルを獲得。混合ダブルスや団体戦においても日本選手団のメダル獲得に大きく貢献されました。幼少期からの聴覚障がいハンディをもものともせずバドミントンに取組み続け、とりわけ、このたびのデフリンピックでの活躍は、障がい有する人々に大きな勇気と希望を与えました。



スポーツ奨励賞 ^{くしろ せんぼつ}KWB 鉚路選抜 【KWB野球】

平成28年10月、第11回U-15全国KWB野球秋季大会にて、3年ぶり2度目の優勝を果たしました。平成20年に創部したKWBボールを使用する本チーム、全国大会への出場は8回を数え、平成25年には全国初制覇を遂げました。鉚路管内の中学3年生で構成された選抜チームであるため、合同練習は休日に、平日の放課後にも自主的な練習を積み重ねて着実に実力をつけ、このたびの快挙は、次世代を担う子ども達に大きな夢と希望を与えました。

平成29年10月17日(火)、鉚路プリンスホテルで鉚路市スポーツ賞・鉚路市スポーツ奨励賞の授賞式が行われました。式辞で山口隆教育委員長は「市民の大きな誇りであり、改めて敬意を表します」と讃えました。受賞者の船戸さんは「感無量。今後も人とのつながりを大事にしていきたい」、長原さんは「大変光栄。4年後のデフリンピックに向けてモチベーションを上げていきたい」、KWB鉚路選抜の古川主将は「名誉ある賞に恥じぬよう後輩たちの手本となるよう頑張っていきたい」とそれぞれ挨拶しました。

鉚路市長・鉚路市議会議長へ(12/22)

社会体育施設の補修・備品等整備要請活動

鉚路市体育協会は、新年度予算編成に向け、市内社会体育施設の補修改善や備品配備に関する要望書をまとめ、蝦名市長と渡辺市議会議長に特段のご配慮を要請しました。

加盟15団体から出された53項目について要請しました。①湿原の風アリーナ鉚路の施設・備品等の整備、②大規模運動公園内体育施設の計画的な補修と更新、③その他の施設の早期改修、④柳町スピードスケート場の屋内総合スタジアム化の4点を掲げ、

要請書を提出しました。

張江会長は「鉚路、根室の子ども達が、屋内リンクがある十勝に住居を移すことなく、鉚路で活躍できるようにしてほしい」と柳町スピードスケート場の屋内総合スタジアム化の建設実現を強く訴えました。

蝦名大也市長は「維持管理費などを考えながら検討を進めたい」と話しました。



第72回 釧路市冬季体育祭総合開会式

第72回釧路市冬季体育祭開会式が11月30日夜、市生涯学習センター多目的ホールで開かれました。12月5日開幕のアイスホッケーから、来年の3月開催のスキーまで5競技約2,500人の選手たちが熱戦を繰り広げました。

開会式では大会長である釧路市教育委員会の岡部義孝教育長は「スポーツが定着しているマチでは人々が生き生きとして活気に満ちている。ウィンター競技の頑張りにより、釧路の冬

に元気を！」とエールを送りました。続いて、大会委員長である釧路市体育協会の張江悌治会長が「冬のスポーツの本場である釧路で若い人を育て、健康のために参加できるスポーツではお年寄りも助けてやる配慮を」と激励しました。

選手宣誓では、釧路カーリング協会「ジンズ」の安齋太章主将が「競技に出られることに感謝しながら、正々堂々と全力を尽くす」と健闘を誓いました。



大会長 挨拶



大会委員長 挨拶



選手 宣誓



優勝杯 返還



レプリカ 授与

平成29年度 釧路管内体育協会連絡協議会

資 質 向 上 研 修 会

釧路管内8市町村の各体育協会で組織する釧路管内体育協会連絡協議会は、11月11～12日浜中町：総合文化センターを会場に「資質向上研修会」を開催しました。

釧路管内住民の健康・体力づくりと連動させたスポーツの振興と各体育協会の連携強化を目的とするこの研修会に、関係役員ら52名が参加しました。

1日目は、『住民と行政の協働による活力ある地域コミュニティの形成』との演題で、北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹松井晃之氏の講演。「社会関係資本（人と人とのつながり）」に着眼したスポ



ーツによる地域づくりの可能性を学びました。

2日目は、ネパール厚岸社会教育主事森健太郎氏による「仲間との信頼関係を築くためのコミュニケーショントレーニング」の実技演習。心と体の一体化を重視した、ごく簡単なルールによるゲームを実践しました。目標実現に向けた意思疎通の必要性や工夫の在り方の大切さを参加者全員で実感しました。

両日も楽しく実り多い研修となりました。各地に戻ってからの確かな還流を期待するところです。担当地区の浜中町体育協会石黒正敏会長はじめ事務局、会員皆様の見事な運営ぶりに感謝申し上げます。



創立65周年を迎えて

釧路クレール射撃協会

会長 高橋 康成



当協会は昭和27年の創立から今年で65周年を迎えました。現在当協会員は33名であり、年に通算5回の協会大会、

国体予選会等の地方大会にも出場し個々が技術の向上に取り組んでいます。

しかし年々厳しくなる銃の規制や高齢化の問題もあり全国的に射撃人口が減少傾向にあります。そんな中、当協会では競技人口の拡大を図るべく若手の育成に励んでおります。また女性シューターの発掘にも積極的に取り組んでおります。

このような取り組みや選手育成の成果もあり、昨年は2名の選手が北海道代表として第72回国民体育大会に出場を果たす等の成果も出ています。

今後の展望としては、技術の向上はもとより若手、女性シューターの発掘育成に、より一層力を入れ全国のトップレベルにも負けないような強い選手を出す様しっかり取り組んでいこうと考えています。

(文責 事務局 田畑 篤)

剣道は人間形成の道

全釧路剣道連盟

会長 藤原 節男



本連盟は、昭和27年に発足し、今年で66年になります。活動の拠点は、鶴ヶ岱武道館で、毎週火、木、土曜日には、老若男女の剣士が集い稽古に汗を流し修練に努めるとともに会員相互の親睦融和を図っています。

そのほか各団体や13の少年団が武道館や学校等の体育館で稽古に励み、心技体を磨いています。主な事業としては、70回となる伝統ある東北海道市町村対抗剣道大会を始め年間8つの主催大会があります。

30年度には、道東四地方親善剣道大会（道東四地方連絡協議会主催）が4年ぶりに釧路市で開催され、150名ほどの道東の雄が集まり、対抗戦が行われます。

また、段級位審査会、練成会、講習会等を実施して、基本技能の習得・選手強化・指導者の資質向上に努めているところです。

少子化による剣道人口の減少は、本連盟でも大きな課題となっています。剣道愛好者の増加を目指し、年2回剣道体験教室を実施しており、それをきっかけに少年団に加入する子供もおり、成果を実感しています。

剣道の理念は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」とされています。本連盟としても剣道を通して人間的調和のとれた人づくりに努めたいと考えています。

創立60周年「育てる」「勝つ」「楽しむ」サッカー

釧路地区サッカー協会

会長 佐藤 茂



2017年度の登録は小学生から社会人まで72団体1,892人である。毎年の全道大会運営では、阿寒多目的広場、陸上競技場・陸上サブ競技場等を活用している

が、人工芝を含めたサッカーの専用競技場の開設が渴望されている。一方、フットサルは2008年に誕生した東北海道最大級の湿原の風アリーナをフル活用して全国大会・全道大会を開催している。特に毎年開催されているFリーグには1,000名を超える多くの観客を集め、主催チームの勝利へと繋がっている。

2016年にマスタープラン2025を制定し、理念としてサッカーを通して釧路地区に「育てる」「楽しむ」ことができる環境を共に作り、心身の健全な発達とスポーツ文化の醸成に貢献すべく活動するとした。この理念に基づき当協会が主管しているJFA三大フェスティバルへの2017年度の参加者はファミリー150名、キッズ133名、レディース・ガールズ84名と盛況を呈しており、今後に更なる期待が持たれている。

当協会は1958年1月に発足し、60周年を迎えた。協会の発展に寄与された各界の先人に謝意を表すると共に未来永劫健全な発展をめざし努力を継続したい。

全道サイクリング大会を終えて

釧路サイクリング協会

会長 小畑 保則



当公益財団法人日本サイクリング協会の釧路支部として活動しております。

平成29年9月2日土曜日から3日日曜日に23年振りに釧路を会場に第55回全道サイクリング釧路湿原大会を道内外のサイクリスト228名が集結、小畑保則会長の「釧路湿原を風に生(な)って走りましょう。」挨拶で素晴らしい湿原を堪能して頂きました。更に多くの皆様にご協賛を頂き開催することが出来ました事も感謝申し上げます。開会式終了後は、どんぱく花火大会を幣舞橋から見て頂き釧路の魅力をご紹介出来ました。今年は、道南の室蘭市で開催されます。洞爺湖一周サイクリングを企画致しております。多くの参加者が見込まれます。最近、自転車と歩行者の衝突事故が多発しており当協会としても安全対策に取り組んでおります。ヘルメットの使用や事故に遭遇した場合の自転車保険加入を推奨しております。過去には9,500万円もの賠償判決がありました。エコな乗物として自転車は多くの方々に利用して頂ければと思います。高齢者等へはサイクリング用の電動アシスト付自転車も普及しており利用が見込まれます。(文責 副会長 時田 英明)

祝 創立記念事業

—更なる飛躍を—
—発刊記念誌の紹介—

本年度に創立周年を迎えられました各協会の皆様、おめでとうございます。協会種目の普及振興、競技力向上及び組織拡大のため、永年にわたってご尽力されました関係皆様に敬意を表します。

それぞれの協会は、式典並びに祝賀会の開催、記念誌の発刊など各種事業を盛大に実施しました。

記念誌につきましては、湿原の風アリーナ釧路内カケハシ釧路スポーツ記念館に収蔵、閲覧可能となっております。是非ともご利用下さい。

祝：創立70周年 【釧路バレーボール協会】

(体協加盟：昭和21年度)

会長：木村 芳人

副会長：朝木忠行 大島正実 福原 聡

平成29年度加盟人員数：841名



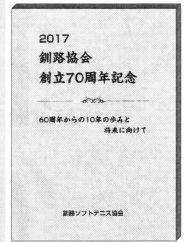
祝：創立70周年 【釧路ソフトテニス協会】

(体協加盟：昭和21年度)

会長：大日向勲男

副会長：石山道子 北村芳博 中村政男

平成29年度加盟人員数：547名



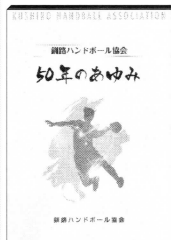
祝：創立50周年 【釧路ハンドボール協会】

(体協加盟：昭和45年度)

会長：山本 直樹

副会長：草島守之 宮下祐司

平成29年度加盟人員数：353名



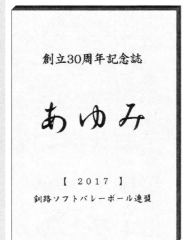
祝：創立30周年 【釧路ソフトバレーボール協会】

(釧バ協加盟：平成26年度)

会長：隅田 一隆

副会長：千高 敏 笠原博美 中嶋セツ子

平成29年度加盟人員数：214名



平成29年度 全国中学校体育大会

第38回 全国中学校体育大会アイスホッケー大会

「清く正しく勇ましく！釧路で競え！氷球魂！」のスローガンの下、1月19日から3日間、全国各地を勝ち抜いた16チームが全国一の座を懸け市内リンクで熱戦を繰り広げました。

釧路市からは、昨年12月に全道大会優勝を果たした鳥取中と、地元開催枠の釧路合同（大楽毛中、共栄中、青陵中、幣舞中、春採中、釧路町別保中）の2校が出場しました。

釧路合同は初戦で八戸第二中に惜敗。鳥取中は順調に勝ち上がりましたが、準決勝で全十勝Aによるやの敗退。3位決定戦では全道王者として埼玉県選抜に大勝。「氷都くしろ」の底力を発揮し全国3位に輝きました。準備運営にあたった春採中学校をはじめ各中学校、釧ア連の皆様お疲れ様でした。



編集後記

「日本体育協会」は、本年4月1日をもって「日本スポーツ協会」と改称する。「体育」から「スポーツ」へと部文言が入れ替わる。1911年（明治44年）の創立時の名称は「大日本体育協会」であった▼初代会長である加納治五郎氏は、協会の使命として、国民体育の普及振興と日本のオリンピック参加を念頭においた。当時の「体育」の概念は、「スポーツ」を包み込む広義の言葉として理解され、身体形成のみならず究極的な人格の完成を目指す教育としての営みを意味していた▼創立から一世紀、その間「スポーツ」は、単に競技として行うものだけではなく、1964年の東京オリンピックを契機とする歴史的過程の中で多様な社会的価値を帯びながら発展を遂げてきた。2011年にはスポーツ基本法が制定され、2015年にはスポーツ行政の一元化を図るスポーツ庁が発足した。世はまさにスポーツの更なる発展の時を迎えている▼すでに「スポーツ」は、「体育」の概念を取り込んだ広義に捉えられ、後世に継承すべき人類共通の文化の一つと位置づけられている。この度の改称は、いかなればグローバルな変化への対応にはかならない。名づける行為は、とにかく未来への希望であり、果たすべき使命への決意表明なのである▼スポーツの多様な価値の基盤は「自発的な運動の楽しみ」であり、改称の意義を改めてかみしめたい。今後、「体育の日」「国民体育大会」などについても、論議の推移を主体的に見守っていき

